

## 会 議 録

□全部記録    ■要点記録

<b>1</b>	<b>会 議 名</b>	令和元年度 第 1 回姫路市環境審議会
<b>2</b>	<b>開催日時</b>	令和 2 年 2 月 1 9 日（水曜日） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 0 0 分
<b>3</b>	<b>開催場所</b>	姫路市総合福祉会館 第三会議室
<b>4</b>	<b>出席者又は欠席者名</b> （敬称略）	<p>（出席者）中瀬勲（会長）、長田秀人（副会長）、家永善文、石井宏治、岩田稔恵、          浦上文男、小河晶子、小島理沙、杉江他曾宏、竹田浩章、通山由美、          中川公恵、中野和子、西村正喜、筈井公美子、長谷川尚吾、花嶋温子、          林叔子、藤田美知枝、星尾隆文</p> <p>（欠席者）山村充、吉田裕康</p> <p>（事務局）市長、環境局長、美化部長、環境政策室長、環境政策室主幹、          環境政策室 2 名</p>
<b>5</b>	<b>傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可 0 人
<b>6</b>	<b>議題又は案件及び結論等</b>	<p>1 議題</p> <p>「姫路市環境基本計画」の策定について（諮問第 1 号）</p>
<b>7</b>	<b>会議の記録</b>	詳細は別紙参照

## 令和元年度第1回姫路市環境審議会 会議録（内容）

### 1 審議事項

「環境基本計画の策定について」（諮問第1号）

### 2 会議の記録

#### (1) 会長・副会長の選出

中瀬勲委員を会長に、長田秀人委員を副会長に選出。

#### (2) 諮問

第1号「姫路市環境基本計画」の策定

#### (3) 審議の進め方について

小委員会は設置せず本審議会にて審議を行うこととする。

#### (4) 資料説明

「資料1 姫路市環境基本計画（平成25年3月策定）の概要」

「資料2 新たな姫路市環境基本計画の策定に向けて」

について事務局説明。

質疑応答

委員：現行計画の評価はどうなっているか。

事務局：現在作業中のため、次回の会議で示したい。

#### (5) 資料説明

「資料3 新姫路市環境基本計画の骨子案」

について事務局説明。

意見等

委員：市内で整備が進められている水素ステーションの立地はどこになるのか。

事務局：民間事業者が整備を行っており、具体的な場所について回答することは差し控えたいが、順調にいけば来年度中に整備が行われる予定である。

委員：水素ステーションの整備により、エネルギー効率は向上するのか。

委員：現在、国内において生産されている水素は、多様な工業プロセスから副産物として生産された副生水素が占める割合が多い。また、現在は電気分解によって水素を生産しており多くの電力を消費する。将来、CO<sub>2</sub>フリーの水素が本格的に生産されるようになればエネルギー効率は向上すると思われる。

委員：瀬戸内海の漁獲量が減少していることについて、何か要因として考えられるものがあるか。

事務局：兵庫県の方で、豊かな海づくりを目指した取組みが行われている。近

年、瀬戸内海の水質がきれいになり過ぎており、窒素やリンの成分が減少していることが要因として考えられる。

会 長：播磨灘の透明度が良くなり過ぎています。これまでは、瀬戸内海一律で基準を設けていたが、兵庫県では現在ゾーンごとに細かく規制を行っている。

委 員：現行計画から新たな環境基本計画の骨子案に至る変更点として、循環型社会と快適環境との表現が無くなっている。現在のような表現にした経緯などについて、説明してほしい。

事務局：現行計画では、基本目標 2 は低炭素・循環型社会の構築との表現になっていた。新たな環境基本計画の骨子案における低炭素に関する分野については、近年の地球温暖化による気候変動、「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の改定など、扱う内容が多くなったため独立させている。循環型社会については、廃棄物に限るのではなく、地域の様々な資源を循環させていくことを想定し、基本目標 5 において「地域環境力の発揮」の中に含めることとした。快適環境については、地域の力を発揮し、環境美化や歴史文化財等の保全に取り組むことで、未来のまちづくりにつなげていくことを想定して「地域環境力の発揮」の中に含めることとした。

委 員：基本目標の「市民環境力」と「地域環境力」がわかりにくい。基本目標 5 の「地域環境力の発揮」については、説明にあった地域の様々な資源を循環させていく「地域循環力」といった表現にした方が良いのでは。また、基本目標 2 の「低炭素社会の構築」については、気候変動への適応策、フロン類対策などの取り組みもあり、低炭素以外の内容も含まれるため、地球温暖化対策といった市民に分かりやすい表現の方が良いのではないか。

会 長：「地域環境力」などの基本目標の表現については整理していただきたい。

事務局：本日示した資料については、事務局としての骨子案の段階なので、各基本目標の表現については、今後、改めて整理を行い、市民の方々にもわかりやすくなるよう修正する。

委 員：高齢化が進んでおり、高齢者がゴミ出しに苦勞されている。高齢者に対する施策の充実をお願いしたい。

事務局：市としては、来年度、高齢者や障害者等を対象としたごみ出し支援、見守り等に関するモデル事業を実施することとなっている。ごみ出し支援に当たっては、人材や機材などが新たに必要となってくる。モデル事業については、とりあえず直営で行い、モデル事業を実施していく中で、得られたデータを基に検討し今後、本格的な事業実施につなげていく。

会 長：高齢者に加え、幼稚園や保育所などの子どもに対する環境学習の充実をお

願いたい。

事務局：現行計画においても、「伊勢自然の里環境学習センター」を拠点とした子どもに対する環境学習に力を注いできたが、今後も継続して取り組んでいく。

委員：これまでの10年で社会情勢は大きく変化しているが、施策案に黒字（現行計画に記載のもの）が多い。今後の10年を考えて、赤字（新規掲載）をもっと増やすべきではないか。

委員：環境部局だけでなく、他の部局で何を行っているか調査すべきではないか。また、黒字に斜線（廃止）を入れる作業も必要ではないか。

事務局：環境基本計画は市の環境に関する計画の最上位に位置するものであるため、全庁を挙げて取り組んでいく。そのため、部署の垣根を超えた取り組みも含まれる。例えば、基本目標4の自然環境との共生、基本目標5の地域環境力の発揮などについては、他の部署が実施する取り組みも記載している。また、現在実施中の庁内の関係各課に対する調査の結果を反映し、新規事業の追加や廃止している事業の削除を行う予定である。

委員：現在の社会情勢を考えると、計画期間が10年というのは長すぎて対応できないのではないか。

会長：他の自治体が計画期間をどのように設定しているかを参考にして、改めて検討してはどうか。

委員：「市民」「事業者」「行政」の誰が取り組むのか、取組の主体が分かりにくい。主体別の取り組みをわかりやすい内容で記載する必要があるのではないか。

委員：骨子案1ページ目には食品ロスが基本目標1に分類されており、4ページ目では基本目標5に分類されている。再度整理をお願いしたい。民間レベルでは余った食料品や使用しなくなったおもちゃを福祉施設に寄付する取組も行っている。市民参加がしやすいリサイクルシステムの構築についても今後、検討いただければと思う。

会長：姫路版のドギーバックを作ったら面白いのではないか。

自然災害のことも骨子案に記載しいていただいているが、しっかりと取り組んでいただきたい。

SDGsにどう対応していくかをもっと考えていただきたい。

委員：着なくなった服をバザーに出すだけでなく、自由に持ち帰りができるコーナーを昨年から設けたところ、大変好評である。また、おもちゃや絵本については、消毒などを行った上で、日頃から再利用に取り組んでいる。ここには掲載されていないが、各市民が力を入れて様々な事に取り組んでいるということを知っていただきたい。

食品ロスは、持って行って何かをするというよりも、「必要ないものは買

わない」という事が重要ではないか。

会 長：様々な取組のエピソード集を作ってはどうか。

(6) 資料説明

「資料4 新環境基本計画策定に関する市民意識調査について」

について事務局説明

意見等

委 員：市民アンケートの回収については、郵送よりも自治会や老人会など地域団体に依頼した方が回収率の向上が見込めるのではないか。

委 員：20歳未満に対する調査票の発送が、100名だけでは回収率を考えるとデータ数が少なくなることが見込まれるため、学校経由による配布・回収をしてはどうか。

委 員：我々の世代よりも、若い世代の方が環境問題に非常に興味を持っていると思うので、授業の一環としてそうしていただくのが良い。

委 員：問3については、選択肢の一部に時宜に適さない部分が見受けられるため、残すものと加えるものをもっと整理する必要がある。

委 員：イラストのスペースがもったいない。問2は、「15 その他」を独立させて、「良くなっている点は何だと思いますか」というような問にしてはどうか。

会 長：各設問に、自由記述欄を設けてはどうか。

会 長：問4の選択肢に「食品ロス」を新たに加えているが、それと同様にもっと新しい選択肢を追加してはどうか。

委 員：性別を問う設問については、「1 男性」と「2 女性」だけで良いのか。

委 員：問5に関して、一般市民の方にとって全体的に選択肢の用語が難し過ぎるのではないか。姫路で大切なものは何であるかを問う方が良いのではないか。

(7) まとめ（全体を通しての意見等）

委 員：意識という側面では、ごみ出しに関する外国人に対する冊子などの配布が必要ではないか。生活習慣が大きく異なるため、普及啓発をきちんと行っていく必要があると感じる。

委 員：青年会議所は、SDGsを特に力を入れて推進している。行政の立場から、青年会議所にこのような事に取り組んで欲しいといった内容を計画の中に盛り込んでいただけたら、事業者としても動きやすい。

委 員：会長から自然災害の話があったが、姫路高校の下の斜面がずっと崩れた状態で放置してある。気候変動に対する対策も充分考えていただきたい。

会 長：姫路市がこれまでの長い歴史の中で培ってきた様々な背景などを盛り込むことで、他都市とは一味違った特色のある計画が策定出来るのではないか。事務局には、本日出た意見を踏まえ、計画の策定作業をお願いしたい。